

祭事暦

10月1日 午前8時30分
 月次祭
 10月17日 午前11時
 神嘗奉祝祭
 10月20日 午前8時30分
 月次祭



発行所
 寒川神社社務所

〒253-0195
 神奈川県
 高座郡寒川町宮山3916
 電話 代表0467(75)0004

編集者 水谷智賢
 責任者
 印刷所 樹さんこうどう



鎮守の森

厳しい残暑もようやく終わりを迎えた。毎年夏が過ぎると、どことなく寂しさを感ずるものだが、今年はそのような気持ちもどこへやら。これほど待ち遠しかった秋もいよいよ稲の初穂も黄金色に染まり、いよいよ実りの季節の幕開けである。幕開けという言葉は、舞台の幕が上がることから転じて物事の始まりという意味で使われているが、他にも幕のつく言葉はいくつか挙げてみるとしよう。例えば大相撲の「幕内力士」は江戸時代、將軍の相撲上覧のときに上級の力士が幔幕（まんまく）の中に座を与えられたところに由来する。また「幕府」は日本の歴史に残る政権であるが、もともと「幕」は帳幕・天幕を、「府」は重要なものを収める場所を意味しており、將軍が張った陣地を幕府と呼んだことに由来している。幕は特別な場を設ける手段として使用されてきた。日本人は仕切るものによって空間を柔軟に変化させてきたのである。そういえば、子供の頃に学校で式典を行った際、体育館に紅白幕が張られているのを見て、遊び場が式場にガラリと変わった印象を受けたことを思い出す。現在の御社殿が竣工された十三回目を迎えた今年の御社殿が竣工された紫紋幕が向拝前と社務所玄関を飾った。御参列された皆様の中には旧社殿の姿を思い出した方もいたのではないだろうか。時が移り行く中で、神社装飾も様々な変化をして今日まで至るが、「幕」という古来より伝わる御神域の表現方法は、社殿の荘厳さや大祭の重みをもより一層感じさせるものである。この紫紋幕は今後、大祭の度に社殿を飾ることになる。大明神様もさらなる御神威を発揮され、寒川神社の新しい幕開けとなることであろう。

(猿)



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
 第六十二回神宮式年遷宮

例祭盛大に齋行

寒川大明神の御神恩に感謝申し上げ、更なる繁栄を祈る例祭が今年も盛大且つ厳肅に齋行されました。

十九日、午後一時からは前日祭が、午後二時には(社)大日本弓馬会による流鏑馬神事が奉納され、射手が的を射抜く度に大きな拍手と歓声が沸き上がりました。
翌二十日午前十時には例祭が厳肅に齋行され、神社本庁よりの幣帛を奉り、責



任役員、氏子総代を始め全国各地から多数の崇敬者が参列され、寒川大明神の御神恩に感謝の念を込め大前に玉串を奉りました。
また、太鼓橋前には、一八〇灯余りの提灯が掲げられ参道を明るく飾った他、両日共、献茶・献花・献句・盆栽展・水石と美石展・武道大会・奉納演武・万灯パレード・奉納演芸等の神賑行事が奉納され、大勢の参拝者で賑い、例祭をお祝い申し上げます。



『細川半蔵と天文・からくり展』賑う！

九月十日より二十日まで開催された、方徳資料館開館一周年特別展「細川半蔵と天文・からくり展」は、多数の入場者で盛況裡に終了しました。

十一日には参集殿にて国立科学博物館の鈴木一義先生の記念講演と九代玉屋庄兵衛氏のからくり人形の実演が行われ、熱心に聴講され、また茶運び人形の实演にはかわいい動きに感嘆していました。

客殿特設会場には、貴重



な土佐の天文学資料や、江戸の天文学資料が多数展示され興味深く観賞されました。



洪川春海の「天球儀」を始め書物等でしか見られない貴重な資料も多く、熱心に見入っております。からくり人形も多数展示され期間中行われた茶運び人形弓曳き童子の実演には多くの方が観賞され、その所作には「大変よかった」との感想が寄せられました。



方徳資料館 ニュース

◆紫紋幕奉納される

平成二十二年九月二十日
例祭に併せて紫紋幕二張が
奉納されました。

奉納頂いたのは、佐藤哲
也様・佐藤俊哉様・安川昌
子様の御三方で、向拝は幅
二十二メートル、社務所玄
関は幅十一メートル、いず
れも羽二重地で神紋・十六
八重菊紋入りです。

今後、この紫紋幕は、祈
年祭、例祭、新嘗祭の三大
祭に掲げられ皆様を清まし
くお迎えいたします。



◆末社御祖神社例祭齋行

—— 祖先の御霊に感謝を込めて ——

彼岸の中日、秋分の日の
九月二十三日、末社御祖神
社例祭並合祀祭が斎行され
ました。

御祖神社は寒川神社の地
元である宮山地区を中心と
した神葬祭を営む家族で構
成される「御祖講」の御先
祖をお祀りする神社で、今
季は新に四柱の御霊が厳か
に合祀されました。

祭典に参列された多数の
講員の皆様は、雅楽の調べ
が流れる中、それぞれの御
先祖様の御霊をお慰め申し
上げ、感謝の念を捧げてお
られました。

私達は普段何気無く便利
な生活をしておりますが、
昔から今の様な暮らしがあっ
た訳ではありません。
偏に親・祖先の努力の賜



物であり、その御陰で不自
由なく過ごせています。常
に私達を守護して戴いてい
る事を忘れてはなりません。

今月の祭

十月十七日(日)

神嘗奉祝祭

日本国民の大御親神と崇
めまつる伊勢の神宮では、
今年収穫された初穂を大御
神に奉り皇室の弥栄、五穀
豊穰、国家隆昌並びに国民
の平安を祈念する神嘗祭が
今月十七日に執り行われま
す。

当神社におきましても、



この伊勢の神宮で行われる
神嘗祭にあわせ、神嘗奉祝
祭を斎行いたします。

◆兼務社だより

◆倉見神社神輿御巡幸

去る九月十二日、雲一つ
無い晴天に恵まれた中、倉
見神社の神幸祭が盛大に執
り行われました。

神輿は担ぎ手である倉輿
会の人等によつて威勢よく担
がれ、地域の皆様のお出迎え
をいたたきながら、氏子区域
を巡幸し、参拝者で賑わう
御社頭に無事還幸いたしまし
た。尚、例祭は十月二日午
前十一時より斎行されます。



当神社宮司利根康教氏
に置かれましては、平成
二十二年十月一日付をも
ちまして、相模原市に鎮
座する日々神社・田名八
幡宮・諏訪神社・八幡宮
の宮司代務者に就任され
ました。

四社の氏子の皆様には、
相変らぬ御崇敬を頂き、
御神徳の更なる発揚と御
社頭の隆昌に御支援頂き
ますようお願い申し上げ
ます。

連載

遷宮講座



國學院大學
神道文化学部教授
神道学博士
なかにし まさゆき

中西正幸

第十八回 新宮の清め

新宮が麗しく聳えたつ御敷地では、平成二十五年八月ごろ、「お白石持ち」という純白の敷石を奉獻する真夏の行事が、賑々しく執行される予定となっている。寛正三年（一四六二）の第四十回内宮遷宮には既に慣例となっていたが、神領民と称されてきた伊勢・一見・御園の八十団体に加えて、全国から有志者が参加して時代絵巻が繰り広げられる。かねて地元町内では住民うち揃って宮川流域から白石を採取し、行事に先立つて賑々しく二見浦に浜参宮を済ませる。当日は老いも若きも揃いの法被をきて、



敷石と内宮正殿

五十鈴の清流や山田の町筋に、木遣音頭やエンヤ曳きの諸声が沸き起こった。それぞれ宮域まで運び入れると、各自が白石を捧げて御垣内に進んで、新殿近くに恭しく奉獻する。清楚で床しい新宮を拝礼して、二十年ぶりに迎えた遷宮への祝意がいやましに高まるのである。一面に敷き詰められた白石は、清浄さを尊んで角ばった「死に石」を忌みきらい、宮川の清流にゆつたりと丸められた純白なものを撰びとる。しかも御敷地を東西に交替するばかりか、敷石すべてを入れ替えるところに、限らない清らかさを求める遷宮のところが知られよう。

「慶安正遷宮行事大略」に「神前之白石、町々より皆、祈禱の為なり」とあるように、不滅の白石を介した神人の交わり、住民あげての地域全体の祈りと解されよう。

次いで御扉を完成させて、新宮の竣工を告げる御戸祭が九月ごろに執行される。「遷宮例文」に始まる中世以降の祭儀で、「御戸立祭」とも称される。その次第は、禰宜以下および造宮庁主事以下が正宮を奉拝したあと、新宮前において主事が神祭りを行い、続いて昇殿。主事が御扉に御鑰穴を穿ち、大床に伺候していた禰宜が、

御白石持行事



これを検知して祭儀を終える。当祭をもつて御扉を立てて新殿の竣工を告げ、正殿はじめ宝殿、御門・御垣の御鑰が引き渡される。また宮大工たちが「清匏」と称して、殿外に清めの匏をかけて整齊の美しさを演出する。洗清とは、禰宜たちが殿内を洗い清める式で、同じく九月下旬の予定である。「遷宮例文」に初見し、内宮は五十鈴の御川水、外宮は御井神社の聖水を用いて、神座はじめ殿内・殿外にいたるまで清めまつる。現行では、禰宜が新殿の御神座まわりや殿内を洗い清め、権禰宜が殿外や濡縁・階段にいたるまで奉仕。さらに宝殿・御饌殿（外宮）を清める。

こうして祭庭に住民が白石を敷き詰め、宮大工が神殿外に清めの匏をかけ、最後に神職が神殿内を拭き清めるもので、この三度の「お清め」に、浄化の極地が実現すると考えられているであろう。

御本殿御造営竣工十周年記念事業

御本殿周辺整備事業奉賛者芳名

上記の方々より赤誠溢れるご奉賛を賜りました。
誌上より厚く御礼申し上げます。

【平成二十二年八月奉賛者】（順不同・敬称略）

- 十万円 西島 潔 東京都港区
- 四万円 鈴木 紀夫 兵庫県西宮市
- 二万円 田中 明 横浜市西区
- 〃 小菅 和代 東京都世田谷区
- 〃 長沼 眞吾 寒川町岡田

◆全総代会開催

去る九月一日、日頃より祭典ほか神社運営にご尽力を頂く寒川神社の総代によって構成される「全総代会」が開催されました。

当日は市川元久責任役員を議長に選出、議事が進められ、前回（六月）以降の祭事・行事・教化活動・事業運営報告、平成二十一年度会計決算報告、例祭斎行の件、方徳資料館開館一周年記念「細川半蔵と天文・からくり展」の開催など、社



務全般について詳細に審議され承認を頂きました。

第六十四回

例祭奉灯 大句会開催

九月五日、寒川俳壇主催による奉灯大句会が盛大に開催されました。

大会当日は兼題「草いきれ」座題「コスモス」の二題の総合審査で優秀句が選ばれます。

厳正な審査の結果、最優秀句には当神社より一之宮賞が授与されました。

また、例祭期間中は、この句会で詠まれた奉灯句が境内に掲げられました。

一之宮賞

廃校の尊徳像や草いきれ

内山 良子



寒川神社商工奉賛会

◆第三十七回年次総会開催

寒川神社を崇敬する商工業者の方々によって組織されている寒川神社商工奉賛会では、九月十九日、商工祈願祭にて生業繁栄が祈念された後、年次総会が開催され、平成二十二年事業計画案・予算案が審議され可決されました。

終了後は、落語家の春風亭昇也氏、瀧川鯉太氏により記念講座が開かれ、会場を訪れた方々は、両氏の話術に魅了され、終始笑い一

◆祭式研修会行われる

◆祭式研修会行われる

神奈川県神社庁相模湘南支部主催の祭式研修会が九月六日、九日の二日間に亘り開催されました。

当日は、県祭式講師、小野和伸先生の懇切丁寧な御指導のもと、より正しい作法での祭祀が行えるよう、各人熱心に作法の確認に取り組んでおりました。



教育勅語渙発百二十周年記念祭 並

式典・講演会開催のご案内

教育勅語渙発百二十周年記念祭
 十月三十一日(日) 午前九時
式典並講演会
 同日 午前十時～正午

寒川神社御本殿 寒川神社参集殿

明治二十三年、「教育に関する勅語」が渙発されてから百二十年の今年こそ「教育勅語」を改めて読み直し、考え直す機会と考え、当神社では、十月三十一日(日) 午前九時、御本殿に於いて記念祭を肅行致します。



同日、午前十時より寒川神社参集殿四階に会場を移して、記念式典、引き続き記念講演を開催致します。講演

講師には、國學院大學教授大原康男先生をお招きし、「教育勅語」についてわかりやすくお話をいただきます。

記念講演は午前十時三十分より正午までとなります。どなたでも無料にて入場できますので、この機会にふるってご参加いただき、「教育勅語」にふれ、ご理解を尚一層お深め頂ければ幸いです。

新規おみくじ授与のお知らせ

この度、筒を振って引く二種類のおみくじの授与を始めました。

初穂料 各二〇〇円



幸運を呼ぶおみくじ



恋文みくじ

※四月一日～十一月三十日迄の期間限定の授与となります。



BS寒川第二団

―岡谷第一団発団五十周年おめでとう―

九月の十一日から十二日にかけて、長野県岡谷市から、BS岡谷第一団が発団五十周年を記念し、遠征キャンプに



来ました。岡谷第一団は前島団委員長が所属していた団、という縁があります。寒川第二団も十一日の夕方から合流し、夕食のカレーをスカウトハウスで一緒に食べて、夜には交流会を開きました。スカウトは、初めこそ見合っていたものの、ソングの交換や、スタンツ、全員参加のゲームなどを一緒にするうちにすっかり打ち解けて、楽しい時間を過ごしました。どんなに遠くのスカウトでも、僕は仲間だ、ということが強く実感できました。最後は記念品交換をして、全員で握手をして別れを惜しみました。岡谷第一団の皆様、ありがとうございました。



第四十三回 写真展作品募集のご案内

開催期間 平成二十二年十一月十日～十一月二十三日
 展示会場 寒川神社境内
 題 材 寒川神社に關係のある未発表の作品
 サ イ ズ 白黒・カラー：四ツ切または六ツ切
 出品点数 一人五点以内
 応募期間 平成二十二年十月一日～十月三十一日
 作品の裏に住所・氏名・電話番号・撮影年月日・画題を明記のこと。

賞 宮司賞・金賞・銀賞・銅賞 他特別賞多数
 表彰式 平成二十二年十一月二十三日
 入賞発表 平成二十二年十一月上旬(入賞者へ直接通知)
 作品応募及び問い合わせ

寒川神社写真展係 ☎ 〇四六七(七五) 〇〇〇四

422

健康手帳

骨泥棒に気をつけて

宗教法人 寒川神社 寒川病院
整形 外科
リハビリテーション科 医師
真鍋 卓容



この世の中誰が強い言うて、まあいわゆるおばちゃん達ほど強いもんでないね。怖いもんなくて言うんかね。やりたい放題、言いたい放題、他人の言うことなんて全然聞いてへん。

あつ、私、猫。天下の自由猫。えつ野良猫かって？

そういう言われ方は、あんまり好きぢやうねん。おばちゃん達とおなじで天下御免。天下御免の自由猫言うたら、なんやかっこええやる。

そうそう、さっきの続き。そのおばちゃん達でもな、怖いものがあんで。振り込め詐欺の電話でも撃退しとるよ。おばちゃん達がやで、皆してなんや怖いわー言うつたわ。えつ、何かって？まあ待ちいな、ちゃんと話したるさかい。あんな、私とこの御近所さ

んに、まあそのへんのおばちゃん達とはちよこつと違つ、小綺麗な奥さんがいてはつてな、ジョギングやらダンスやらもしてスラッとしてはるし、顔かて若々しゅうて皺もシミもないし、でもな、その人がこのあいだ転んで骨折したんやて。それでもって、何や骨粗鬆症やら言われて、骨折は治つたけど、今も骨を強する薬を飲んではんねんで。でもその人はちゃんと診断して治療してもらえたから、またダンスやらなんやらできるよ。うってよかつたいうことやねんけど、世の中には、骨粗鬆症をちゃんと診断治療して貰われへんで、自立性の低下、自信の喪失不安や抑うつなんか悩む人もおるらしい。それに骨粗鬆症ちゅうのは、知らん間にどんどん骨が減つてい

て、気いついた時には骨折してしまつと、まあ正に骨泥棒というわけで、しかも女の人の三人に一人は骨粗鬆症による骨折を経験するといふんやから、おばちゃん達にとつてはただごとやない。ましてあんな綺麗で若々しうな奥さんでもそうやつたんやから。そら怖いわー、わたしらも気いつけよえ、いや気いつけとつたてあかんで、知らん間の骨泥棒や、早よ病院行かなとなつたわけですわ。もう怖いもんなしやなんていうてられへん。ちゃんと先生の言わはることは聞かんとね。

これ読んでくれてはるあんなさんも、気いつけや。他人ごとやあらへんで。そこのおとうさんも、ひとことちやうよ。奥さん骨折したら大変よ。病院受診勧めたつてよ。

さあみんなて今日から骨美人！いつまでも元気で、私ら自由猫のように天下御免と行きましょか。



人事

◆退職

△神社▽
録事 木村美由貴
願いに依り職を免ずる
平成二十二年九月三十日
△寒川病院▽

◆新採用

△寒川病院▽
看護師 丸山 香織
事務職員 福川 優子
寒川病院勤務を命ずる
平成二十二年十月一日

看護師 飯田 薫
願いに依り職を免ずる
平成二十二年九月三十日

神前結婚式ご案内会



10月24日(日)
午前10時より午後5時迄
参加費 無
寒川神社参集殿
ご予約・お問い合わせは
0467-75-5555

医療講演会のご案内

とき 10月15日(金)
午後6時～7時
ところ 寒川神社 参集殿
内容 「みんなで防ごう！
スポーツのけが」
～小さなSOSをのがす～
講師 整形外科医長
橋本 吉登

入場無料 申込不要
ご来場をお待ちしております。
0467-75-6680
寒川病院

財)日本オリンピック委員会 強化スタッフ
財)日本バレーボール協会 科学調査委員会 医事部
財)神奈川県体育協会 スポーツ医学委員会 委員

新涼の夜風

新涼の新砵を水に寝かせけり
 無花果の熟れて隣家に人住まず
 彼岸花雲一つなき野を焦がす
 俎板の音のリズムや天高し
 新涼の夜風もつめて旅支度
 神域の奥までひびく威銃
 古井戸の石のせてあるちぢる虫
 体力も気力も戻り稲を刈る
 喪の家の音なく暮るる百日紅
 天高し遠くの音がよく聞こゆ
 村中を一つにしたり稲穂波
 嬰の頬はじけるばかり鳳仙花
 七草の仲間外れや吾亦紅
 新涼や渡り廊下の長き宿
 燃ゆる程どこか寂しき曼珠沙華
 スタッフも皆老人の敬老会
 風の中農婦に見える遠案山子
 運動会の拡声器より笑ひ声
 激しさのほんのいつとき秋夕焼
 猛暑去り湯呑のぬくみ手にやさし
 新涼の句作の卓に洋酒の香
 秋の川見て居るだけで和みけり
 水澄むやダム湖の底に分離帯



金指 月光
 岩田美代子
 伊藤 公一
 倉谷 節子
 飛石 槿花
 菅沼 保幸
 山本 朝子
 根岸 君子
 相原 白路
 芹沢 徳光
 宮入 つる
 高橋はるよし
 天沼 子平
 四ツ車梢月
 菅沼つめの
 松本美智子
 金子 つち
 岡田風呂釜
 竹村真砂美
 三輪 恭子
 露木てる子
 皆川志んこ
 千葉 静香

十月 手水舎奉掲

昭憲皇太后御歌

さと人がとよ年いはふくゑすなり
 いねのはつほを神にささげて

相模詠草

細い川どしゃ降り雨に目久尻川の勢う流れの相模川へと
 朝の散歩に出会いし人と見上げたる樺大樹にふくろう眠る
 畠に出てみれば茄子は紫、ピーマン緑丹精みのる夏の大地よ
 庭すみに三本植えし茄子みのりこき紫を惜しみつつ挽ぐ
 何もせずのんびり過ごす身に深き疲れの出でしかさみしき心
 何時の間にか父母より歳をとりにてゐぬ吾の米寿を過ぎていたとは
 孫達がするめをつけたつりざおでつるぞざりがに笑顔で三十ぴき
 象の形の赤如雨露が昨日から真夏日の庭に転がりており
 足湯につかりうとうとと臉重くなるほんのり赤く頬もそまれる
 汗まみれ土化粧なる母の顔思い出しつつ夏草を取る
 岐路急ぐ路地に匂える卵の花の小花の白く雨にぬれおり
 襟もとよりのぞくうなじの白きに似て半夏生なる緑葉の白
 たんぼ道にふうわりレースまとい咲くアナベルというま白あじさい
 毛づくろいさながら頭肌の湿疹に薬塗りくるる嫁の指荒れ
 もついやだ、誓ったはずの吾に届く激励の声に心揺らぎぬ
 羽根きらり蜻蛉飛び来て飛びゆけりわが狭庭辺の今朝の秋なる



工藤 光子
 稲島 治江
 三留とく子
 天利 春枝
 岡元 芳子
 出町 安子
 土屋トミ子
 宇田川時子
 浜田 寿子
 山口 幸子
 山根喜美代
 安藤 慧
 川島恵美子
 吉田マツ子
 龜山 文子
 杉本 照世

表紙写真説明

奉納された紫紋幕を装い、清浄にし
 て肅々と例祭斎行を待つ御本殿

編集後記

西空には西雲、夕日に輝く黄
 金色の稲穂、野原にはトンボ

の群れ。コオロギと鈴虫の涼
 しげな合奏。どれもこれも自
 然が織り成す秋の最高芸術作
 品。自ずと心が癒される。